

# 令和5年度鹿児島学習定着度調査結果

実施日：R6/1/16, 17

対象：5年生 19名

平均通過率 ( ) は無答率

	本校	市	県
国語	52.2 (1.4)	68.5 (1.6)	68.5 (1.6)
社会	54 (2.4)	65 (2.1)	65.3 (2.4)
算数	60.9 (0)	74 (0.4)	74.6 (0.3)
理科	68.9 (0)	75.5 (0.3)	75.4 (0.3)

## 1 正答数分布グラフより

各教科の正答数をグラフにしたものを使い分析を行いました。

### (1) 国語：問題数 22 問

- ・ 県や市に見られる 22 問から 18 問までの高正答層がない。
- ・ 8 問から 6 問の低正答層が県より多い。

### (2) 社会：問題数 27 問

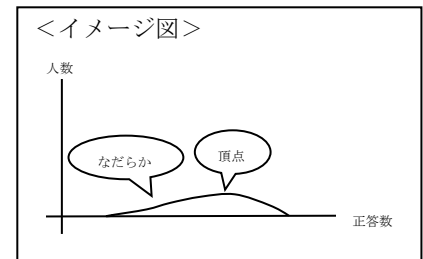
- ・ 正答分布の開きが大きく、突出して高い正答層がない。

### (3) 算数：問題数 16 問

- ・ 正答数 11 問を頂点とした、なだらかな山なりの分布グラフを描く。

### (4) 理科：問題数 20 問

- ・ 正答数が 18 問から 11 問の間で同程度存在し、長方形のような分布グラフを描く。



## 2 考察

正答率が 75% から 85% の間に頂点がある山なりのグラフを描くようになると、県の正答率を越えます。本校は、グラフの頂点が 60% から 70% の間にあったり、グラフがなだらかな山なりを描いたりしています。このことから以下のことが分かります。

- (1) クラス内に、学習内容をある程度理解している層と、理解できていない層が幅広く点在している。(定着度の個人差が大きい。)
- (2) 四則計算や重要語句など、確実に正答すべきところを取りこぼしている。

4 年後には高校受験に臨む子がほとんどでしょう。すでに将来を見据え、努力を重ねている 5 年生が市内にはたくさんいます。その子たちと競うのです。取り掛かることに早すぎるということはありません。中学校にあがってから取り掛かるにしても、小学校高学年での学習が定着していること、学習に向かう姿勢ができていることが土台です。土台ができているかどうかで中学校での学習内容定着に雲泥の差が生じます。始めるなら今です。

～分からなかったで終わらせない～

児童… 授業の中でわからないことがあればその都度質問する。

家庭… 習ったことをその日のうちに反復学習させる。

学校… 集中して学習できる環境をつくる。児童の理解度を小まめに把握する。  
授業改善に努める。

上記は一例です。できることから始めましょう。